

第1回高知県立病院経営健全化推進委員会 要旨

- 1 日時
平成22年3月25日（木）13時から14時30分まで
- 2 場所
高知県庁西庁舎3階会議室
- 3 出席者
委員 : 武田委員長、倉本委員、中澤委員、山本委員
県立病院課 : 長瀬局長、西原次長、彼末課長、濱田チーフ、井上主幹、岡本主幹
安芸病院 : 浅野事務部長、吉川主幹
- 4 議事要旨
 - (1) 委員長の選任について
委員互選により武田委員長に決定。
 - (2) 審議会の公開について
委員会の傍聴を認めること及び傍聴者に会議資料を配布することを決定。
 - (3) 安芸病院アクションプランについて
 - ・施設基準の「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」は、看護師が褥瘡ケアの認定看護師資格を21年6月に取っているのに届出がまだなのはなぜか。(委員)
→ 速やかに届出する。
 - ・どの項目に重点的に取り組むのか、例えば「医師確保」と「未収金」が字の大きさも同じで同列に並んでいてわかりにくい。
取り組みを進めていくもの、手の打ちようがないもの、病院として何に困っているのか、委員の力を借りたい部分などの違いを明確にするように。(委員)
→ 次回までに整理する。
 - (4) 改革プランについて
 - ・医師事務補助を配置して、医師は本当に楽になっているのか。(委員)
 - ・医師事務補助は他県の大学病院でも同じ問題を抱えている。看護師は楽になったが医師の負担は軽減されていない。(委員)
→ そういった視点で調査する。
 - ・医事課のプロパー職員は一定割合を維持するよう決めているか。ノウハウを蓄積するためには、一定の人員が必要である。決めていないならその弊害は考えていないのか。(委員)
→ 医事業務については民間事業者に完全に委託している。ノウハウが蓄積されないといった問題は認識しているが、他の方法でもクリアできる方法があると考えている。
 - ・収益向上や経費削減などで稼いだ額に応じて、研修費用が充てられるなど、自分達が努力して稼いだ分は自分達で使えるといった仕組みはあるか。せっかく頑張っても赤字補填で全部吸い上げられるというようなことはないか。(委員)
 - ・DPCと出来高を比較して、成績が良い部門は評価する手法を取っているところもある。(委員)
 - ・成果を上げたから古いまま我慢して使っている研究機器等を更新して欲しいと院長に直訴したような例もある。現場は給料や休みが欲しい訳ではなく、そういう形での評価を求めている。何らかのインセンティブは重要。ただし、

こういった指標を用いるかは必ず有利不利が生まれるので非常に難しい。(委員)

→ 現状では、そういった予算の割当などは行っていない。

・空床を余り作らない努力が必要だが、ベッドコントロールはどの部門が行っているか。(委員)

→ 今までは平均在院日数の短縮が注目されており、空床には着目できていなかった。最近では病院の中でも、在院日数の短縮を図る一方で空床を作らないようにという課題意識が共有されつつある。

なお、ベッドコントロールは看護師が行っているが、安芸病院はMSWを1名配置し、退院調整などを充実させる予定である。

・空床率と平均在院日数による収益の閾値は、Excel レベルの数式で簡単に把握出来る。(委員)

・空床が多いのは、病院の固有の問題か、それとも地域の問題か。(委員)

→ 安芸病院は、医師不足や医療事故などの影響で、少し消極的になってしまった部分がある。地域外への流出率も高い。

・今後への提案として、テーマに優先順位を付け、メリハリを付けた方が良い。2年で完結するもの、3年以上継続するものなど、スケジュールにも違いがある。(委員)

→ 次回までに整理する。

・委員会の全体像を説明して欲しい。(委員)

・薬品の値引き率は中四国平均が目標で良いのか、超えられる可能性のある部分は目標の引き上げを考えていくなど、委員として個別にかかわることが可能な部分もある。(委員)

→ 総務省のガイドラインの中で、改革プランは外部組織による点検評価を受けることとなっているため、そういった目的で設置したもの。4人の委員全員に集まっていたら委員会は、基本的には、点検評価のために決算時期と合わせた年1回の開催と考えている。

ただ、テーマに沿って、個別に相談させていただきたいと考えている。

(5) その他

次回の委員会は、22年7月開催予定。